

【解答時間 90 分】

○次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

われわれが平和の問題を考えると、まず認めなければならない厳然たる事実は、国際社会には「唯一の正義」など存在しないということである。ある国が正しいと信じることは、他国から見れば明白な誤りであることは決して稀ではない。これは、国家という存在が単なる軍事的な「力の体系」や経済的な「利益の体系」である以上に、固有の歴史によって形作られた「価値の体系」だからである。

人びとの日常を支える「常識」や価値体系は、言語や習慣に体现され、歴史のなかで深く心のなかに食い込んでいる。そのため、それは世界共通の一般的なものではなく、国や地方によって異なる特殊なものにならざるをえない。日本と外国を隔てているのは、単なる地図上の国境線ではなく、むしろこの「常識」や正義の相違なのである。

しかし、人間はこうした複雑な現実を直視することを嫌う傾向がある。困難な状況に直面したとき、われわれは非難すべき「悪いもの」を見出し、それを除去すれば平和が訪れるという(a)「善玉・悪玉」的な考え方に逃げ込んでしまう。これは、人間が行動力には勤勉であっても、知的には怠惰な存在であることに原因している。特定の勢力を「悪」と決めつけることは、自分たちは何も変わらなくてよいという免罪符を与えてくれるからである。

(中略)

現代の多文化共生や平和構築において求められるのは、他者の「正義」を自らのものと同化させることでも、あるいは力によって排除することでもない。(b)「国際社会にはいくつもの正義がある」という事実を前提としつつ、異なる価値体系が衝突する境界線において、いかに緊張を管理し、共生のための対話を継続できるかという点にある。国家間関係が力・利益・価値の三つのレベルの複合物である以上、平和への道は、この複雑な絡み合いを解きほぐす終わりのない知的労働のなかにしか存在しないのである。

問1 下線部(a)について、著者が指摘する「善玉・悪玉的な考え方」が、なぜ平和の問題を解決できないのか。文章中の語句を用いて、180字以内で説明しなさい。

問2 下線部(b)について、なぜ国際社会には「いくつもの正義」が存在すると著者は考えているのか。著者が述べる国家の性質に触れながら、200字以内で説明しなさい。

問3 異なる「正義」や「価値体系」を持つ国々や人びとが共生していくためには、どのような姿勢が必要だと考えるか。本文の内容やこれまでの学習をふまえ、具体的な事例を一つ挙げながら、あなた自身の考えを600字以内で述べなさい。